

(社会科) 学習指導 (活動) 案

【実践者】

【関連する SDG s】 (1・5・8・11・12・17)

氏名 佐々木 征司

学校名 北広島市立西部中学校

学年 (人数) 3年A組：27名、3年B組：28名

実施教科 社会科(公民)



【実施概要】

<p>単元名(活動名)： 社会科公民分野 第6章「国際社会に生きる私たち」中学社会公民「ともに生きる」教育出版 P202～ 1節「国際社会の平和を目指して」④⑤ 2節「国際社会が抱える課題と私たち」③ ※上記単元および項目を組み替えて、再構成。終章「私たちが未来の社会を築く」の活動に結び付ける。</p>
<p>2. 単元の目標</p> <p>①国際社会が抱える課題を解決するために果たすことができる役割を、キルギス共和国と日本の関わりを例に考え、持続可能な発展に向けた開発目標と結び付けて具体例をあげて説明することができる。</p> <p>②よりよい社会を築いていくため、キルギス共和国と日本の関わりを例に、国や企業、民間団体や個人でもできる国際支援の在り方などについて、現代社会に見られる課題の解決を視野に入れ、主体的に社会に関わろうとしている。</p>

3. 単元計画 (全7時間)			
☆単元を貫く問い 「日本は国際社会に対してどんな力を発揮できる？」			
時	ねらい	学習活動	資料など
1	日本も含めた国際社会の地域統合 (地域主義) や自由貿易協定の長所・短所について、多面的・多角的に考察し、表現している。	○EU, ASEAN, APECなどを例に、国際社会における地域統合についての理解を深め、日本との関わりについて考える。 ○日本が結んでいる経済連携協定について調べ、その効果や日本への影響を考える。	○ワークシート
2	アジアを中心とした日本の国際貢献について、技術協力や経済援助の視点からとらえ、今後も他国から期待される活動のあり方を考える。	○様々な資料を基に、日本が世界の一員として国際貢献を進めてきた経緯や事業内容について理解し、国際貢献の意義や国際支援の現状を理解する。 ○フォトストーリーを通して、中央アジアのキルギス共和国について関心を高める。	○写真 ○Canva

3	日本の国際協力の対象地域について、調べ学習を通して理解を深め、地域の持続可能な発展に向けた課題を見出す。	○日本の援助対象であるキルギス共和国について調べ学習及びクイズ作成を通して、文化、自然、歴史、産業などを理解する。 ○キルギスの課題や疑問に思ったことをまとめる。	○Googleフォームで問題を作成し、カフトでクイズに取り組む。
4	同世代の人々の暮らしぶりや考え方に触れ、相互協力に向けた意識を高める。	○JICAの取り組みについて理解を深める。 ○キルギス共和国で活動する現地海外協力隊の活動拠点とリモートで交流。	○3A、3Bの両教室と現地をGoogle meetで接続 ○JICA海外協力隊 里見 遙 氏
5 本時	キルギスフェルトのOVOP事例から、地域社会の課題解決のための持続可能な開発と発展に必要な手法を考え、自分の言葉で説明することができる。	○キルギス共和国におけるOVOPプロジェクトの取り組みを「農村の人A、B」「OVOPプロジェクト」「企業」の立場に分かれてロールプレイを行う。 ○グループごとの活動方針をまとめ、説明する。	○スライド資料 ○ロールプレイのセリフ集 ○まとめ用のプレゼンテーション
6	キルギスフェルトのOVOP事例を通して、途上国の課題や地域の実態に応じた支援や包括的なエンパワーメントの在り方を理解し、自分の言葉で説明することができる。	○キルギスのOVOPの現状と課題について、理解する。 ○モノカルチャー経済、南南問題や貿易における格差についての課題を理解する。	○JICA 技術開発専門家 原口 明久 氏
7	国際支援の在り方と自分たちが暮らす地域の発展の相互関係について、考えを深める。	○理研興業(株)の取り組みについて、講話を聞き、身近な地域の産業や経済と国際経済との結びつきを理解する。 ○日本が自国ですべきことと、国際社会に対してできることを、それぞれ考えてまとめる。	リモートによる講話 理研興業(株) 柴尾 幸弘氏

4. 本時の展開 (5 / 7)

本時のねらい： 地域社会の課題解決のための持続可能な開発と発展に必要な手法を考え、説明する

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料(教材)
導入 (4分)	<p>●スライドで本時の活動を確認 「現在、キルギスでは日本政府によって経済や産業を援助する取り組みが行われています。」 「そういった支援を何という？」</p> <p>◎『ODA』『技術援助』 「その一環として、キルギスではJICAが支援する一村一品運動が展開されていました。」</p>	既習事項の確認	<ul style="list-style-type: none"> スライド資料 フェルト製品

	<p>「地理の日本の地域の学習でやりましたね。これを現地ではOVOPプロジェクトと呼んでいます。」</p> <p>「OVOPでは農村の人達と協力して、キルギスの人たちにしかできない商品を作って販売していました。しかしながら、なかなか軌道に乗らず、『支援を打ち切るべき』という意見も出てきています。」</p> <p>「そんな中、ある企業から、キルギスの人たちと一緒にモノづくりの仕事をしたい、という打診が来ました」</p> <p>●フェルト製品を見せる</p> <p>「これは羊の毛で作られています。キルギスでフェルトはどんなものに使われていたかな？」</p> <p>◎『テント』『帽子』</p> <p>「今日はみんなに、この農村での特産品生産プロジェクトの会議に参加してもらいます」</p>	<p>資料の提示 画像と実物 フェルト製品</p>	
--	---	-----------------------------------	--

【課題】地域社会の課題解決のための持続可能な開発と発展に必要な手法を考え、説明する

<p>展開① (12分)</p>	<p>●「これから、役割を4人班で分担して、ロールプレイをします。設定がありますので、役になり切り、相手の気持ちを揺さぶってください。」</p> <p>●それぞれの立場の設定を紹介する。</p> <p>●セリフシートを4人班に配布。</p> <p>交流①4人班で活動</p> <p>◎「OVOPプロジェクト」「企業担当者」「農村の人A」「農村の人B」の立場で役割分担。</p> <p>◎主張をロールプレイで伝える。</p> <p>◎自己紹介からスタート。</p> <p align="center">《主張の概要とセリフの例》</p> <p>【農村の人A（肯定派）・B（消極派）】</p> <p>・少ない収入。都市から離れた地方での暮らし。支援を受けて、女性たちがもの作りや販売を始めた。主な産業は農業（牧畜など）。</p> <p>「これまで、家の仕事とものづくりを少しずつ両立させてきました。確かに現金での収入が得られて、とても助かっています」</p>	<p>・役割の設定を確認。</p> <p>・4人班で役割分担。</p> <p>・役割は各班に封筒を配布。取り出した役割を担当。</p> <p>・セリフの用紙の裏にワークシート。</p> <p>・企業、OVOP、農村の人の会話を進める。</p>	<p>・スライドをグループに振り分ける。</p> <p>・配布の資料は別紙</p> <p>・ワークシート、セリフ</p> <p>※5人で取り組む班もある。 その際はOVOPを2人にする。</p>
----------------------	--	---	---

<p>展開① (12分)</p>	<p>「でも、一緒に仕事をしている仲間にも、この仕事を旦那さんや家族に反対されている人がいます」</p> <p>【OVOP】</p> <p>・ JICA の取り組みの一つで、日本の ODA をベースに、キルギスの人々の生活の質や収入の向上を目指して、農村の人々と力を合わせて活動してきた。</p> <p>「家族で仕事を分担して、ワークショップに参加できるようになった人もいます」</p> <p>「収入アップが期待できます」「確かに、これまでの仕事よりも大変になるでしょう」</p> <p>【企業】</p> <p>・ 世界各地の良い品物を探して、買い付けを行い、日本や中国、欧米各国で商品を販売。オーガニックや自然素材のプロダクトを中心にした展開を考えている。</p> <p>「今回作ってもらいたい商品は、小さな子どもでも安心して遊べるフェルトのマスコットです」</p> <p>「作業する環境や使う道具なども商品に悪影響のある要素は排除してもらいます。例えば、作業する人の服装も清潔で髪の毛は出さず、マニキュアなどもしてはいけません」</p>	<p>・ 交流</p> <p>※交流①ではセリフ順を指定。</p> <p>交流をスムーズに。</p> <p>・ 話の様子を観察。</p>	<p>・ 1 個 4 ～ 5 時間 1 日 2 個 ⇒60 日 休みなく働いて 一人 120 個</p> <p>・ 為替レートは 1 ドル=100 円とする ※年収とレートは 2010 年頃の数値</p>
<p>展開② (11分)</p>	<p>交流② 1、個人でワークシートに記入</p> <p>●会議の参加者に最後に何を伝える？</p> <p>◎A「収入も大事だけど、これからはずっと仕事をつづけたい」</p> <p>B「時間に合わせて仕事をして、収入を増やしたい」</p> <p>企業「製品を生産してもらい、商品を確保したい」</p> <p>OVOP「農村の人々の生活を安定させて、これからはよい品物を生産できるようにサポートしたい」</p> <p>2、役割ごとに分かれて交流</p> <p>◎個人で書いた内容を交流し、良いと思った意見を取り入れる。</p>		
<p>展開③ (17分)</p>	<p>交流③ 1. グループに戻って思考ツールに記入</p> <p>●「立場が伝えたいことを思考ツールに発表</p>		

	<p>し、ほかの立場の人の意見を記入しよう」</p> <p>◎自分の立場とほかの立場の意見を記入</p> <p>●「4者に共通している願いは何だろうか？」</p> <p>◎「お金」「収入」「利益」</p> <p>●「現地の人はお金だけが欲しいのかな？」</p> <p>●「地域が抱える課題とは何だろうか？」</p> <p>◎『新しいビジネスのアイデアが出ない。あっても、作り方がわからず、売り方もわからない』</p> <p>『お金を稼ぐ手段が少ない』『女の人が外で働きづらい。女の人立場はどうなんだろう。低い？』</p> <p>『生活が苦しい』『借金をしている人がいる』</p> <p>『支援がないと収入がなくなるかも』</p> <p>●「持続可能な開発のために必要なこと？」</p> <p>◎『生活の水準を上げる』『収入が安定するような仕組みを作る』『自分たちで自立してお金を稼ぐ仕組みが必要』『支援が無くなってもいいようにする』『男女の平等を広げる』</p>	<p>・ワークシート 簡条書きでよい 一人3つ</p> <p>・Padletに記入させる。</p> <p>・ワークシート ・Padletに記入させる。</p> <p>・2～3の班に発表させる。</p>	<p>・Padlet</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>○実際は日本でも地域の活性化が課題である。同じような課題を抱える国も多い。</p> <p>○ワークシートのまとめに、気づいたことやわかったことを書かせる。</p> <p>○次回の予告 ⇒実際のキルギスでの取り組みの様子などを通して日本と国際社会との関わりを学習。</p>		
<p>5. 評価規準に基づく本時の評価と評価方法</p> <p>【本時の評価】</p> <p>《思考・判断・表現》</p> <p>A 評価：キルギスの課題を解決するための方法について、ワークシートにまとめたことを、他者の考えと結びつけて説明している。</p> <p>B 評価：キルギスの課題を解決するための方法を、ワークシートにまとめている。</p> <p>【評価方法】・思考ツールへの取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループワークへの参加の様子 ・ワークシートへの取り組み 			

【参考資料】

資料および外部との連携

《参考文献》

- ① 「ビジネスとその持続可能性を通じた女性の選択肢とエンパワーメントの拡大：キルギス共和国の手工芸品ビジネスの事例研究」 下田 恭美
- ② 「インクルーシブ・サプライチェーンの構築にむけて」～無印良品の事例～ IFC（国際金融公社）
- ③ 「OVOP 報告書」（フェーズ2）原口 明久氏
- ④ 無印良品ホームページ くらしの良品研究所> Found MUJI > MUJI×JICA プロジェクト キルギス編
《外部連携》
- ① JICA キルギス事務所専門家、原口明久氏「リモートによる中学校3年生への講話」
- ② 海外協力隊員による講話「現地の学生と中学校3年生とのリモート交流」
- ③ 株式会社理研興業 代表取締役副社長 柴尾幸弘氏による講話
 - ・キルギス共和国に対する無償技術援助についての状況
 - ・モンゴル及び中央アジア各国の現状と先進的な取り組みについて

【自己評価】

苦勞した点	教材作成にかかわって、事象を正確にとらえるための事実の整理から、教材の段階に落とし込む作業に時間がかかった。インターネットや書籍だけではなく、専門家からの資料提供をいただいた。
改善点	生徒に提示する資料（今回は台本と設定資料）の分量をより精選する必要がある。
成果が出た点	現地や地域の人材を指導過程に位置付け、生徒の興味関心を高めることができた。様々なリソースを活用することで、今後の学校全体の教育課程編成に関連付ける可能性が見いだせた。また、国際協力や国際理解への意識を高めることができたと言っている生徒が多かったことも成果だった。
学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)	原口氏の講話を受けての生徒の感想（一部） 「キルギスや現状、取り組みなどを詳しく教えていただきありがとうございます。とてもわかりやすく、多くのことを学べたのでいい経験になりました。」「先日のお話を通して、キルギスやODA などについて学ぶことが出来ました。特に、無印との提携などの話が面白かったです。自分も国際協力に興味があるので、これを機にもっと調べてみたいと思いました。」「キルギスについて、また原口さんがどのような活動をしているのかを深く知ることができました。実際に売っているところを見せていただいて、自分で調べたことや先生からの話で聞いていたことが鮮明にイメージできるようになりました。お話を聞かせていただいて、私も海外の文化や課題に目を向けて、調べてみようと思いました。日本についての課題も調べていきたいと感じました。」
授業者による自由記述	単元の流れを構成するうえで、生徒自身が情報を集約していくスタイルを重視した。まずはフォトランゲージでキルギスについての関心を高めた。次にアクティビティーを通じて、キルギス社会の課題の一つにフォーカスし、生徒自身で考える過程を構築した。まとめとして、講話に入ることによって、意欲的に話を聞いている様子が見られた。
次年度以降の取組予定	社会科のみならず、総合や道徳の時間に国際理解や国際協力のテーマで教科横断的に中央アジアの現状や日本との関わりを含めて、扱いたい。

(ロールプレイ設定資料集①)

キルギスの地域の課題を解決するために必要なことは？

ロールプレイ設定資料 【農村の女性】 A さん

【自己紹介】

私は、OVOP の仕事をすることで、金銭的にも精神的にも生活にゆとりが生まれ、とても豊かな暮らしができるようになったと感じています。



【役割の設定と条件】

JICA の OVOP の活動に参加することで、これまでなかった収入を得ることができている。リーダー的な役割をしており、村の女性に声をかけて人を集めることができる。フェルト作りだけでなく、果物や植物を生かしたジャムや石鹸なども作って販売することで、身近なものがお金になるんだということがわかった。旦那さんの理解も得て、これからも活動を続けたい。ビジネスに高い関心がある。周りの仲間と楽しく仕事をできることに喜びを感じている。今後につながる仕事になってほしいと、前向きに考えている。家にいるだけではなく、外に出て、仲間とおしゃべりをしながら楽しく作業をする。そして、収入も増える。今の生活はとても充実している。

キルギスの地域の課題を解決するために必要なことは？

ロールプレイ資料設定 【農村の女性】 B さん

【自己紹介】

私は、4年間、OVOP で作業をしてきました。今ではだいぶ慣れていきます。自分の時間がこの2年で増えたので余裕もできました。



【役割の設定と条件】

4年間、JICA の OVOP の活動に参加してきた。リーダーとして活躍している。うまくいかない周りの女性たちを見て、声をかけながら作業が進むようにしてきた。夫と二人暮らしで、子どもは成長して独立している。お金を得ることに大きな魅力を感じるが、新たな仕事を進めることの大変さを感じている。様々な事情で作業に参加したいけれど、加わることができない仲間がいることがとても気がかりに感じている。一方で、より多くの収入が得られたら、多くの仲間が加わってくれることをよく理解している。今回の話はあまり良い印象をもっていない。

マスコット1つ2ドルなら喜んで参加でき、もしかしたら周りの仲間も理解するのでは?と考えている。



(ロールプレイ設定資料集②)

キルギスの課題を解決するために必要なことは？

ロールプレイ設定資料【OVOP スタッフ】

【自己紹介】

私は、これまで農村のみなさんと仕事をしてきた OVOP のスタッフです。この度、日本の企業が皆さんの技術に関心を持ち、フェルトクラフトを作ってほしいという注文がありました。私たちは地域の力を活かし、皆さんの生活をよりよくしたいと考えています。よろしくお願いします。



【役割の設定と条件】

日本の ODA が継続するかしないかは、今回が最後のチャンスになるかもしれない。そのためにはなんとしても村の多くの人に働いてもらう必要がある。今日話し合いに来てくれた、農村の女性 2 名は村のリーダー的な役割である。2 人が説得したら、プロジェクトを進める上で十分な人数を集めることができる。2 人には何としても協力してほしい。そして、企業ともしっかり意見を伝え交渉しなければならない。特に消極的な農村の女性 B さんの話をよく聞きながら進める必要がある。

今回のフェルト製品づくりには材料費に1ドル、諸経費に1ドル以上かかる。企業の買い取り額が、1ドルだと、生産者に支払われる金額が不足してしまう。OVOP が赤字になっては活動が続けられない。また、生産者である女性たちにもわかりやすい説明が必要である。

キルギスの課題を解決するために必要なことは？

ロールプレイ設定資料【企業担当者】

【自己紹介】

今日は皆さんにかわいらしいフェルトのマスコットをたくさん作ってほしくて、日本からキルギスにやってきました。世界各地で商品を買りたいと考えています。ぜひともよろしくお願いします。



【役割の設定条と条件】

キルギスでオーガニックや自然素材といった、先進国の意識が高い消費者に向けたプロダクトを作ることは、高い収益につながる可能性がある。一方で、安全性の確認や、ばらつきがある商品は売り物にならないため、厳しい条件を崩す事はできない。1 商品当たり、日本円で 1600 円で売れたら利益は確保できる。

しかし、輸送料・材料代などを踏まえると、OVOP からのマスコット1つの買い取り価格は2ドル~3ドルまでが許容範囲であり、それを超えると赤字になってしまう。一度の輸送で20万の経費。もちろん一社員なので、この場での即決はできないため、金額や条件があわなければ、本社と相談が必要。

キルギスの人たちの平均年収は約1000ドル。1ドル=100円として考える。

(ロールプレイ台本)

- 1 OVOP「お集まりいただきありがとうございます。私は、これまで農村のみなさんと仕事をしてきたOVOPのスタッフです。この度、日本の企業が皆さんの技術に関心を持ち、フェルトクラフトを作ってほしいという注文がありました。私たちは地域の力を活かし、皆さんの生活をよりよくしたいと考えています。よろしくをお願いします。自己紹介を企業からお願いします。」
- 2 企業「今日は皆さんにかわいらしいフェルトのマスコットをたくさん作ってほしくて、日本からキルギスにやってきました。世界各地で商品売りたいと考えています。ぜひともよろしくをお願いします。」
- 3 OVOP「つぎに農村の女性Aさんをお願いします。」
- 4 女性A「私は、OVOPの仕事をする事で、生活が金銭的にも精神的にもゆとりが生まれ、とても豊かな暮らしができるようになったと感じています。」
- 5 OVOP「つぎに農村の女性Bさんをお願いします。」
- 6 女性B「私は、4年間、OVOPで作業をしてきました。今ではだいぶ慣れてます。」
- 7 OVOP「ありがとうございます。それでは説明を企業の方からお願いします。」
- 8 企業「今回作ってほしい商品は、小さな子どもでも安心して遊べるフェルトのマスコットです。」
- 9 OVOP「うまくいけば、収入アップが期待できます。農村の方々には、作業メンバーをたくさん集めるのに力を貸してほしいと思っています。」
- 10 女性A「これまで家の仕事とOVOPでの作業で、生活を両立させてきました。現金での収入が得られて、とても助かっています。」
- 11 女性B「以前、作ったものが売れなくて、時間が無駄になることもありました。新しいことをしても収入が得られるかわからないと、多くの村の人が思います。借金もあり、返済に追われて苦しい状況です。」
- 12 企業「当社では安全面などの製品検査をしっかりとります。製品にばらつきがあってもいけません。こちらが求める基準を満たしていなければ、納入されても買い取れません。」
- 13 女性B「初めは手先が器用じゃなく、うまくいかないことが多かったです。少ない量を何とか作ってしましたが、今回の仕事は私にとっては難しいと思いました。」
- 14 企業「売れたかどうかに関わりなく、基準をクリアしたものは買い取りますので、皆さんの収入は確保されます。製品として完成したら、買取です。」
- 15 女性A「買取ならリスクは少ないですね。これまでの作業で稼いだお金で車、家具、コンピューターなどを購入できる人もいれば、子供の授業料を支払った人もいます。コンピューターの使い方を勉強して、データ入力の仕事をはじめた人もいます。」
- 16 OVOP「確かに、これまでの仕事よりも大変になるでしょう。もし、製品に不備があったときはみんなで修正して、出荷できるようにしましょう。」
- 17 企業「今回の計画がうまくいけば、来年もクリスマス時期に向けて製品を作ってもらいたいと考えています。」
- 18 女性A「魅力的ですね。私の周りでは、ロシアに子どもたちが住んでいて、送金もしてくれているので、経済的に不自由していない人たちも、参加したいといっています。」
- 19 女性B「確かにそうですが、ソ連時代が終わってから、教育と医療が無料ではなくなり、特に女性が仕事に就く機会が激減しました。家で家事をすることを求められてきました。参加のハードルは高いと思います。」
- 20 OVOP「そうですね。たしかに、女性は家で働くべきだ、と考える人もたくさんいます。でも、そういう人にこそ、家計にはお金が大事ではないですか？と伝えていくのがいいかもしれませんね。私たちも一緒に声をかけていきたいと考えてます。」
- 21 女性B「仕事を教えなきゃいけないですね。前向きではない人に参加してもらうにはどうしたらいいですか。」
- 22 OVOP「確かに、教えることも出てくると思いますが、そのためには作り方を細かく書いた説明書を配りますので、安心してください。家族で家事を分担して、作業所にきて仕事ができるようになった人もいます。」
- 23 企業「製作に当たっては、スタッフが指導や改善の要求をします。作業する環境や使う道具なども商品に悪影響のある要素は排除してもらいます。例えば、作業する人の服装も清潔で髪の毛は出さず、マニキュアなどしてはいけません。化学薬品による影響は現在、とても関心が高まっています。でもこれは、皆さんのこれからの成長を考えてのことです。」
- 24 女性B「同じサイズで同じ品質のフェルト製品を大量に手作りできるなんて『おとぎ話』のようで信じられないです。」
- 25 OVOP「製造過程で人形の形をそらせる枠にはめてみる方法を考えています。」
- 26 女性B「村での小物づくりを辞めて、裁縫工場に行って働く人から話を聞くと、作業はもっと簡単だったと話しています。実際はどのようなのでしょうか。」
- 27 OVOP「そうですね。遠くの街の工場では働く時間が長く、収入が村で仕事をする時と同じケースもあるようです。地域の女性の収入が増えると、家族からの理解も得られる人も増えています。村で働きながら、空いた時間でその人のペースで少しずつ作業ができるのが、私たちOVOPの特徴です。今回はあくまで、企業の発注を受けていますが、通常は蜂蜜や石鹸などを作っていますので、多くの人に知ってもらいたいです。」
- 28 女性A「作業でもらえるお金はいくらになるのでしょうか。」
- 29 OVOP「企業からの今回の注文数は何個ですか？また、企業側ではいくらで買い取ってくれますか？」
- 30 企業「今回の注文は全部で5000個です。完成したものは、OVOPから一つ1ドルで買い取ります。ほかの国では、我々のオファーを引き受けてもらうことができませんでした。」
- 31 OVOP「でも、1ドルだと女性たちに支払う金額が少なくなってしまうので、困ります。」
- 32 企業「そうですね。金額は検討しましょう。まずはサンプルを作ってもらい、それを検査します。検査には3か月かかります。作業開始は9月からで、クリスマスを狙った商品なので、納期は11月30日をお願いします。」
- 33 OVOP「作業の期間は2か月ですね。村で働けそうな人は何人くらいいるのでしょうか？」
- 34 女性A「経験者が15名。未経験者が30名です。」
- 35 女性B「未経験者ももっといるはずですよ。こんな厳しい作業や納期を守る経験はしたことがないです。」
- 36 女性A「人数が多くても、収入が減ってしまうのも困ります。自分たちの仕事が減るのは困ります。」
- 37 企業「虫がわいたり、針が混入したりするのはもってのほかなので、細心の注意が必要です。模造品防止のため、商品のラベルも一枚たりとも外に流出しないようにしてください。袋詰めとラベルも貼って納品していただきます。」
- 38 OVOP「確かに厳しい条件ですね。今回は、皆さんが作ったものを我々が買い取って、企業に売ることになります。このマスコットを一個にどれくらいの時間がかかりそうですか？」
- 39 女性A「材料があれば1個作るのに4~5時間で完成できます。慣れた人なら1日に2個作れるかもしれません。」
- 40 OVOP①「そうですね。納期は実質2か月。作業場を広くして、働く人が増えても良いようにします。たくさんの人にこの活動を知ってもらって、多くの人に参加してほしいのです。製作に必要な材料は全てOVOPが用意します。私たちは働く皆さんと同じ立場です。」

(ワークシート)

第6章「国際社会に生きる私たち」 2節「国際社会が抱える課題と私たち」

月 日 年 組 名前

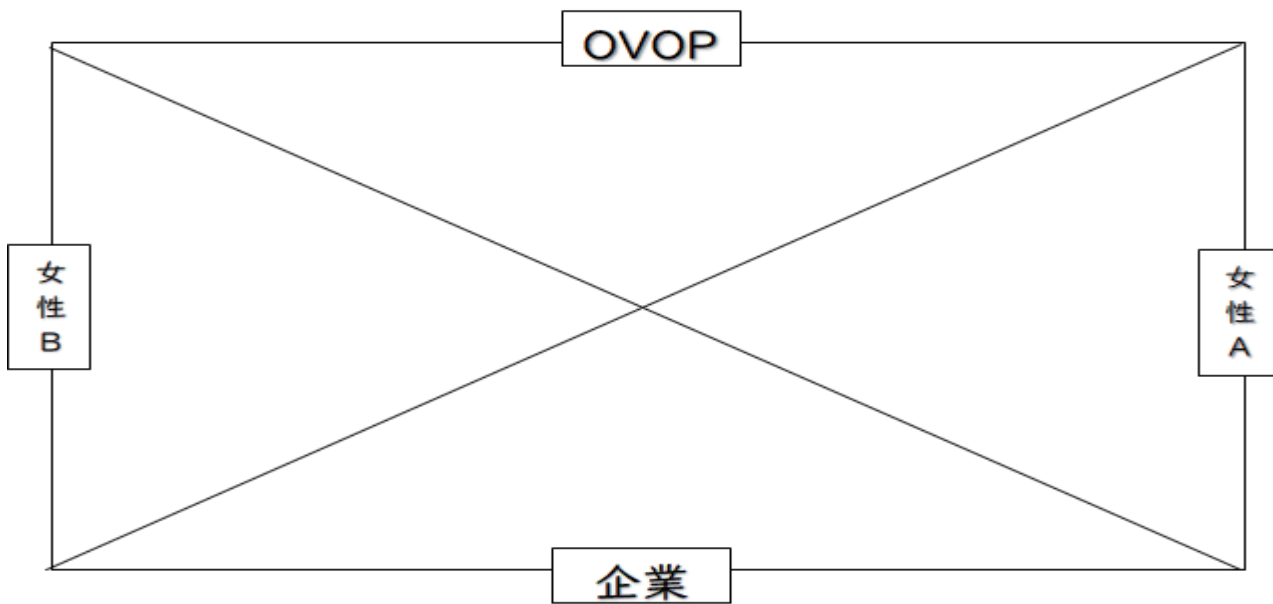
【課題】

「地域社会の課題解決のための()な開発と発展に必要な手法を考え、説明しよう」

わたしの役割は【 】

考えよう① この会議の最後に自分の役割が伝えたいことは何か？

グループ 役割ごとの話し合いで出てきた意見を出し合って、下の枠の中に記入しよう。



考えよう② この地域の課題は何か？箇条書きで1人3つ♪

考えよう③ この地域の持続可能な発展のためにはどんなことが必要か考えよう。

《まとめ》授業を通してわかったこと、気づいたことを書こう。

[Blank box for writing the summary]



(授業進行のPowerpoint資料)



JICA **日本のODA**

JICAのOVOPについて

JICAのOVOP (One Village One Product) は、キルギス共和国で実施されている **ODA (Official Development Assistance)** の一環です。

このプロジェクトは、地域の伝統的技術やリソースを活用し、地域的な産業を振興することを目指しています。

地域の伝統的技術やリソースを活用し、地域的な産業を振興することを目指しています。

● Made with ODA



地域力としての伝統 伝統的技術や知識を継承し、地域産業を活性化させる。

伝統的技術の継承 古くからの伝統的な技術や知識を蓄積し、地域産業を持続的に発展させることが重要な目標です。

地域コミュニティの支援 地域コミュニティ全体の経済的な自立と発展を支援することが、OVOPの根幹にあります。

● Made with ODA

OVOPの目的とは



- 1 地域産業の振興**
OVOPの主な目的は、地域の特産品や工芸品などの産業を育成し、地域経済を活性化することです。
- 2 伝統的な技術の継承**
古くからの伝統的な技術や知識を活かして、地域の産業を持続的に発展させることが重要な目標です。
- 3 地域コミュニティの支援**
地域コミュニティ全体の経済的な自立と発展を支援することが、OVOPの根幹にあります。

● Made with ODA

ソ連崩壊後、流通・生産などの経済活動を支える地域コミュニティが消失し、多くの人が貧困生活を余儀なくされている。そのような状況で・・・

2006年からJICAの協力のもと、地域経済活性化を目指した一村一品 (OVOP=One Village One Product) 事業が始まった。




しかし・・・

なかなか活動が軌道に乗らず、JICA内では『今年でODAによる支援を打ち切るべき』という意見も出てきています。



■ そのような状況下で・・・
ある企業から、キルギスの人たちと一緒にモノづくりの仕事をしたい、という打診が来ました!!



キルギスフェルト製品

キルギスは、伝統的なフェルト製品で有名です。キルギスのフェルト製品は、手作り織り成され、美しいデザインと色彩が特徴です。

キルギスのフェルト製品には、帽子、バッグ、マット、アクセサリなど様々な種類があります。これらの製品は、キルギスの文化や伝統を反映しており、世界中で人気があります。



企業からは・・・

これ⇒
作りましょう!



【課題】
地域社会の課題解決のための（持続可能）な開発と発展に必要な手法を考え、説明しよう。

- 4つの立場に分かれてロールプレイをしよう。
- 振り分けられた自分の立場で伝えたいことを考える
- ノドレットに記入
- 共通の願いは？
- 課題は何だろう？
- 地域社会の課題解決のための持続可能な開発と発展に必要な手法を考え、説明しよう。

今日は「プロジェクト会議」に参加してもらいます。


- **OVOPのスタッフ**
JICAの取り組みの一つで、日本のODAをベースに、キルギスの人々の生活の質や収入の向上を目指して、農村の人々と力を合わせて活動してきた。今回がうまくいかないと、ODAが中断されてしまう、……。
- **農村の人々**
少ない収入。都市から離れた地方での暮らし。支援を受けて、女性たちがもの作りや販売を始めた。主な産業は農業（牧畜など）。
Aさんは積極的に活動したい、Bさんはちょっと消極的、……。
- **企業**
世界各地の良い品物を探して、買い付けを行い、日本や中国、欧米各国で商品を販売。オーガニックや自然素材のプロジェクトを中心とした展開を考えている。

会議に入る前に・・・

【POINT】


- 今回はOVOPが農村の女性から買い取った品物を企業に売る流れ。
- 企業側は、1ドルで買い取ったことを持ちかけている。日本では1つ1600円で売る予定。一度の輸送で20万の経費。
- OVOPは企業の買い取り額が、1ドルとはあまりにも厳しい条件としている。1ドルということは、様々な経費を差し引いた分になり、生産者に支払われる金額は、0.5ドルに満たないためである。
- キルギスの平均年収は約1000ドル。
- 為替レートは1ドル=100円として考える。

Aさん




【役割の設定と条件】
JICAのOVOPの活動に参加することで、これまでなかった収入を得ることができている。リーダーの役割をしており、村の女性に声をかけて人を集めることができる。フェルト作りだけでなく、果物や植物を生かしたジャムや石鹸なども作って販売することで、身近なものがお金になるんだということがわかった。旦那さんの理解も得て、これからも活動を続けたい。ビジネスに高い関心がある。周りの仲間と楽しく仕事をできることに喜びを感じる。今後につながる仕事になってほしいと、前向きに考えている。家にいるだけではなく、外に出て、仲間とおしゃべりをしながら楽しく作業をしている。

Bさん



● 【役割の設定と条件】
4年間、JICAのOVOPの活動に参加してきた。リーダーとして活躍している。うまくいかない周りの女性たちを見て、声をかけながら作業が進むようになってきた。旦那さんと二人暮らしで、子どもは成長して独立している。お金を得ることに大きな魅力を感じるが、新たな仕事を進めることの大変さを感じている。様々な事情で作業に参加したいけれど、加わることができない仲間がいることがとても気がかりに感じている。一方で、より多くの収入が得られたら、多くの仲間が加わってくれることをよく理解している。

OVOP




【役割の設定と条件】

日本のODAが継続するかしないかは、今回が最後のチャンスになるかもしれない。そのためにはなんとしても村の多くの人に働いてもらう必要がある。今日話し合いに来てくれた、農村の女性2名は村のリーダー的な役割である。2人が獲得したら、プロジェクトを進める上で十分な人数を集めることができる。二人には何としても協力してほしい。そして、企業ともしっかり意見を伝え交渉しなければならない。特に消極的な農村の女性Bさんの話をよく聞きながら進める必要がある。

今回のフェルト製品づくりには材料費に1ドル、経費費に1ドル以上かかる。OVOPが赤字になってしまうのは活動が続けられない。また、生産者である女性たちにもわかりやすい説明が必要である。

■1ドル=100円として考える。キルギスの人たちの平均年収は約1000ドル。

企業



【役割の設定と条件】

キルギスでオーガニックや自然素材といった、先進国の意識が高い消費者に向けたプロダクトを作ること、高い収益につながる可能性がある。一方で、安全性の確認や、ばらつきがある商品は売り物にならないため、厳しい条件を崩す事はできない。1商品当たり、日本円で1600円で売れたら利益は確保できる。

しかし、輸送量・材料代などを踏まえると、OVOPからのマスコット1つの買い取り価格は2%~3%までが許容範囲であり、それを超えると赤字になってしまう。一度の輸送で20万の経費。

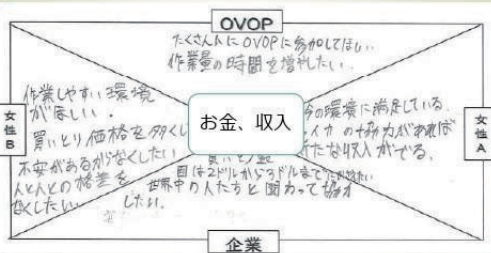
それぞれの立場で伝えたいことは？

パドレットへGO!!!
リンクで飛んでください



padlet

それぞれの立場で伝えたいことは？



OVOP
下の人々にOVOPに参加してほしい。
作業量の時間を増やしたい。

女性B
作業しやすい環境がほしい。
買い取り価格を高くしたい。
不安があるが安くしたい。
人々との格差を減らしたい。

女性A
今の環境に満足している。
収入の増大が目標。
収入を増やしたい。

お金、収入

企業

各自、課題と思われることを3つ挙げてください。

パドレットへGO!!!
リンクで飛んでください



padlet

今回、企画を持ち込んだ企業は、、、



Found MUJI
MUJI×JICAプロジェクト
キルギス編

ストップ！若者の海外流出。
 キルギスには、仕事を求めてロシアへ出稼ぎに行く若者がたくさんいます。キルギスだけでなく、ロシアに隣接している国では同じような事態が起きているようです。自国に産業が生まれることで、こうした現象を防ぐこととなります。

の雇用が生まれます。また、こうして得たお金は、子供たちの養育費などに充てられやすくなります。

もどくりに進む多様な形。 コミュニティの活性化。

その後、

- めちゃめちゃ厳しかった企業は無印。日本を始め、欧米でキルギスの人たちが作ったものを現在も売っている。農村の女性たちにフォーカスし、情報の発信も行っている。
- 女性たちは、収入が得られたことで、生活にゆとりができ、生活水準が少しずつはあるが向上している。地域全体に、彼女たちの経済活動が良い影響を与えている。
- OVOPは現在たくさんの女性が作業に参加し、スタッフも増え、今後日本のODAが終了した後も継続した発展ができるように活動している。来年度の売り上げ目標は1億円を突破することである。
- だがしかし、、、きっと課題もあるでしょう



参加者の声

- 地域住民**
 "OVOPプロジェクトによって、私たちの匠的技術や特産品が世界に認められるようになりました。"
- 地域リーダー**
 "地域コミュニティがプロジェクトに参加し、経済的な成長と自立を実感しています。明らかにインパクトを与えています。"
- 国際協力機関**
 "OVOPは地域開発における有力な方法として、国際的な支援を受けている成功事例です。"

Made with Genome

今後

次週、実際にキルギスでOVOPの取り組みを進めているJICAの専門家の原口明久さんを講師に迎え、いろいろとお話をしてもらいます。次回の授業で質問などをまとめましょう。

Made with Genome



わたしの一枚

タイトル： これなーんだ



写真を撮った場所： ショルブラック村

家畜の糞を固めて乾燥させ、焚き付けや燃料にしている。料理のかまどや室内のストーブにも利用されている。生徒にこれは何か？という問いかけをすると、答えはまず出てこないが、ネタばらしをすると、一斉に驚いていた。しかし、汚いなどといったネガティブな見方ではなく、「SDGsだね」や「他にもそんな風に活用している地域なかったっけ？」「日本もバイオマスとか堆肥とかやってるよね」などの反応があった。資料から考えさせることで、これまでの学習や生活経験と関連付けて発想する力をはぐくむことができる。その際、写真をじっくり読み取らせ、見えてくる情報を言語化させることが重要である。

氏名： 佐々木 征司

学校名： 北広島市立西部中学校